

※セミナーで使ったスライドですが、イラストや図を削除したため
読みづらい箇所があると思います。ご了承ください。

香港ママの便利帳主催セミナー
『乳幼児の健康、
気になる子どもの言動』

日時： 2013年5月8日(水)

午前10時～11時15分

場所： NNI香港会議室

講師紹介:

合田美穂(ごうだみほ)

大阪府出身。精神保健福祉士。

現在、香港中文大学の歴史学科・日本研究学科にて、非常勤講師をつとめる傍ら、日本および中華圏(主に香港)における発達障害支援の比較調査や発達障害支援拡張のための啓発活動をおこなっている。

所持する資格などは、ほかに、初級障害者スポーツ指導員、専門社会調査士など。

1、子どもの気になる言動の例

および、**家庭**でできる対応とは？

1、子どもの気になる言動の例

(1) 曲がったことが大嫌い

(例：物事の裏表がない)

(2) いつも同じだと安心

する(違えばパニックに)

(例：スケジュールが

急に変更になると

当惑する、ものごとの

予測が苦手である)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(1) 曲がったことが大嫌い (例: 物事の裏表がない)

例: まったく車も通っていない視界のいい田舎の一本道で、信号が青になるまで、待っていた。

→褒めるべきことは褒める。「臨機応変に！」は難しい。

例: 赤信号の横断歩道を、見るからに強面の男性が渡っているのを見て、「信号無視だ！」と大声で相手に注意した。

→「こわそうなおじさんなので、逆ギレされるかもしれない」という想像力を働かせるのが苦手。子どもの考えが正しいことを褒めると同時に、「おじさんの信号無視はよくないことだけれども、他の知らない人に対しては、よくないことを直接注意すると、逆に叱られることもある」と説明する。

1、家庭や学校でできる対応とは？

(2) いつも同じだと安心する(違えば怒ってパニックになる)

例:いつも同じ道を通して散歩をしたがるので、思い切って別の道を歩かせようとしたところ、怒ってパニックに。

→他人に迷惑をかけないのであれば、「無理強い」はしない。友達と一緒にいる時などに「○○ちゃんはこっち行きたがってるよ」と、徐々に別の道に誘ってみる。

1、家庭や学校でできる対応とは？

(2) いつも同じだと安心する

例：遠足先（いつもと違う場所）
で、緊張してパニックになる。

→事前に、この日が郊外学
習であることを知らせ、行き
先の写真や地図を見せて、
一日の流れやその場所を
理解させ、安心させる。

1, 気になる子どもの言動の例

(3) 音や味に敏感である

(例: 特定の音が大嫌い、極端な偏食がある)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(3) 音や味に敏感である (例: 特定の音が大嫌い、極端な偏食がある)

例: いつも同じものばかり食べたがるので、いろいろな味に慣れさせるために、別のメニューを作ったところ、激怒した。

→他人に迷惑をかけないのであれば、「無理強い」はしない。
時間をかけて、少しずつ、徐々に別のものにも慣れさせる。

例: 楽器の音が苦手で、合唱大会や音楽会では耳をふさいで泣き出してしまう。

→周囲の音を聞こえにくくするためのヘッドホンなどが販売されているので、そういったものを効果的に利用する。

1, 子どもの気になる言動の例

(4) 耳や目のバランスが悪い

(例: 耳よりも目から入る情報の方がはるかに理解しやすい。子どもの特性によって、その逆もあるので注意が必要。)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(4) 耳や目のバランスが悪い

この特性が顕著だと分かった場合は、
子どもは、耳よりも目から入る情報の方がはるかに
理解しやすいということを念頭におき、何かを伝えたい時や、
指示をする際には、

絵を見せ
ることが
有効的。

わかりやすい絵

1、家庭や学校でできる対応とは？

(4) 耳や目のバランスが悪い

「注意散漫傾向が強い」子どもは、話をしている際にも周囲のいろいろなものが視界に入ったりして、注意散漫になって聞こえてない

ことが多いので、
同時に絵や文字
を見せるのが
効果的。勉強時
は余計なものを
周囲に置かない

1、家庭や学校でできる対応とは？

(4) 耳や目のバランスが悪い

学習障害の傾向がある場合は、視覚による理解ができない(例えば文字を読むことが苦手な識字障害などの)子どももいるので、絵や文字を見せるよりも、話したほうがいい場合もある。個人差がある。
→子どもがどういうタイプかを見極めることが大切

1, 子どもの気になる言動の例

(5) 注意の持続が困難である

(例: 注意の配分や持続が苦手である)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(5) 注意の持続が困難である

(例：注意の配分や持続が苦手である)

特に、**注意欠陥(集中力欠如)**の傾向が強い子どもは、話をしている際にも周囲のいろいろなものが視界に入ったりし、授業中でも教室においてある備品や掲示物やクラスメートのことが気になって授業に集中できないことが多い。

(その一方で興味のあることには没頭するというように、**注意の配分がアンバランス**のこともある。)

→教室や勉強部屋には、飾り物など気が散るものとなるべく置かない。勉強中もテレビはつけない。

教室などでそれが困難な場合は、窓の外や掲示物に気を取られにくい場所(前列中央など)に座るように、学校にも協力してもらおう。

1, 子どもの気になる言動の例

(6) 記憶力がよすぎる

(例: 多くが全ての物事に対する記憶がよいわけではない。単純な記憶が得意である。重要ではないことを覚えている。嫌なことを忘れられない。脈絡なく、さまざまな記憶が戻ってくることもある。)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(6) 記憶力がよすぎる

例：ショックな体験や怖い体験（犬に追いかけられたなど）がいきなりフラッシュバックになって、よみがえってきて、パニックになることが多い。

→「何いってるのよ」と叱らず、「今、あの犬がいないから大丈夫だよ」と安心させる。

例：何度も何度も同じことを思い出しては、繰り返し話す。

→思い出したことを繰り返し話すことで、安心感を得ている場合もあるので、人に迷惑をかけていない限り、無理に止めさせない。

1, 子どもの気になる言動の例

(7) 相手の気持ちがわからない (例: 状況や表情が理解できず、本当の言葉の意味がわからない。冗談や皮肉も字義通りに受け止める。)

1、家庭や学校でできる対応とは？

(7)相手の気持ちがわからない

例：太っている人に「デブ」と言ったり、民家にお呼ばれした際に「この家、ボロだね」と言ったり、もらったプレゼントに対して「これ安物っぽいね」と正直な感想を述べたりした。

→「相手の気持ちを考えなさい」と叱ってもあまり意味がない。「〇〇さんは、デブって言われて悲しかったんじゃないかな？」などと、具体的に相手の気持ちを代弁し、本人に感想を聞いてみる。

1、家庭や学校でできる

対応とは？

(8) その他の効果的な対応

「叱責(特に罵声や体罰)よりも、適切な行動をとった時にほめること」

「計画的なトークン(ごほうび)が効果的」

「当事者にかかわる大人(親や教師)の間では、理解と協力は不可欠」

→これらのことは、どの人にも多少なりともあることです。全く完全に当てはまらないという人はおらず、このうちのどれかが少しはあるはずです。

それが顕著であるか、その傾向がやや強いのか、あまりそういう傾向がないか・・・など、人によって個人差があります。

次に、それらが非常に顕著な場合の例をご紹介します。

2, それらの言動が社会生活を送る上で顕著になった場合

- (1) 特に就学前から、視線が合わなかったり、呼びかけても反応しないことが顕著になる。
- (2) 子どもの遊びなどに興味を示さない。

2, それらの言動が社会生活を送る上で顕著になった場合

(3) 協調性がないために、
小学校に入ってから、
友達を作りたいのに
作れない状態が続く

→以上の特性は、「どの人にも多少なりともあること」で、「全く完全に当てはまらないという人はおらず、このうちのどれかが少しはあるはず」とお伝えしました。

しかし、それが「あまりにも顕著で、社会生活を送る上で、困難な状況になる」場合は、以下の可能性もあるかもしれない、ということを念頭におくことも必要です。

(こういう知識があったほうがいいということで、ご紹介をします。)

3、発達障害に関連した名称

(1) 広汎性発達障害

広汎性発達障害という呼び方は、操作的診断基準（ICD-10, DSM-IV）の診断名で、広義の自閉症と同じ意味で使われる。自閉症、アスペルガー症候群、高機能自閉症、AD/HD、学習障害なども、広汎性発達障害に含まれる。

広汎性発達障害



(2) 広汎性発達障害の3つの中核症状

1) 対人関係

(例:相手の気持ちを思い測ることが苦手で、対人関係がうまく築けない)

2) コミュニケーションの障害

(例:会話のキャッチボールができず、コミュニケーションがうまくとれない)

3) 限局した関心と活動

(例:こだわりなどがあるために、自分だけの独特の行動パターンを作る)

3, 広汎性発達障害(人口の6.3%)に含まれる障害の例:

(3) 自閉症(人口の1%程度)

対人関係がうまくもてない

コミュニケーションがうまくとれない

独特の行動パターン(こだわりなど)がある

・・・などの3つの中核症状が3歳ごろまでに生じていることが自閉症の診断基準となっている。

女性より男性に4倍くらい多いとされている。

(4) アスペルガー症候群(アスペルガー障害)

上述の中核症状はあるが、知能の遅れはないことに加えて、3歳の段階で二語文が話せるといったように、言葉の遅れがないということも診断基準になっている。

(5) AD/HD(注意欠陥/多動性障害)

AD/HDは、自閉症や、アスペルガー症候群とも、かなりの割合で重複していると考えられている。

AD/HD(注意欠陥/多動性障害)とは:

- 注意力が散漫
- よく動き回る
- 待つことや行動を切り替えることが苦手 等の特徴がある

→ADのみ、HDのみの特性を持った人もいる

→それが、学校や家庭などの2つ以上の場所で、同年齢、同じ発達水準の子どもと比べて明らかに認められるのであれば、AD/HDの可能性が考えられる

(6) 学習障害

AD/HDと同様に、学習障害は、自閉症や、アスペルガー症候群とも、かなりの割合で重複していると考えられている。

学習障害の場合は、個々によって症状が異なる。

(7) 発達障害でありながらも、特異な才能を持つ有名人にはどんな人がいるか

(正高信男著『天才脳は発達障害から生まれる』、PHP研究所、2009年 より)



(8) よく誤解されている発達障害の原因

1) 心理的な原因で生じる情緒障害

(例：内向的であったり、ひきこもりがちな性格だったり?)

2) 育て方や養育者の性格などが原因

(例：子どもとの関わり不足、愛情不足、育児放棄、虐待)

3) 食べ物、摂取物が原因 (例：人口添加物や、予防接種の水銀など)

4) 物理的な外因 (例：環境ホルモン)

これらは誤解!!! 養育環境による内向的な性格や言語の遅れなどと、発達障害とは、はっきり区別するべきもの。

(9) 発達障害の原因

脳内の情報処理の仕方に障害があるといわれ、いくつかの仮説がある

- 1) 「生まれる以前からの素因があり(→**遺伝的要因**も関与?)、ある段階に症状が出現する」という考え方が有力。
- 2) 症状の多様性や、経過が大きく異なることから「**ひとつの原因だけではなく、様々な原因の総和**として症状が現れる」とする考え方もある。
- 3) 「**素因、発症、抑制などの様々な遺伝子が関与している多遺伝子、多因子によるものである**」とされる考え方が支配的。

4, 発達障害、または、子どもの特性は、「治す」のではなく、「共存する」「理解してうまくやっていく」という考えが大切

→もし、発達障害(と診断されたとしても、名称は障害ですが)を「障害」として捉えるのではなく、「子どもの特性が強いために、社会生活を営む上で、困難になっている」
「脳の動きのパターンがほかの子どもと異なる」、
「ほかの子どもに比べると個性的であり、子どもが持つ特性について理解する必要がある」、
「子どもの特性に応じた対応方法の知識があったほうがよい子育てができる」と考えることが大切。

→子どもの特性、発達障害は幅広いものであり、治すべきものというのではなく、「共存していこう」という考え方が重要だと考えられるようになっている。